

Weekly report



株式会社 ミンカブ・ジ・インフォノイド
東京都東京都千代田区神田神保町3-29-1

為替週間展望 = ドル円は 105 円を中心とするもみ合いか

[11月16日からの1週間の展望]

週間高低 (カッコ内は日)		11月9日～11月13日			
	始値	高値	安値	終値	前週比
ドル・円	103.35	105.68(11)	103.19(9)	104.96	+1.61
ユーロ・ドル	1.1882	1.1920(9)	1.1746(11)	1.1805	-0.0069
=====					
国内株・金利 / 米国株・金利					
		終値	前週末比	終値	前週末比
日経平均株価	25,385.87	+1060.64	日本10年債利回り	0.021	0.000
ダウ平均株価	29,080.17	+756.77	米10年債利回り	0.882	+0.063
=====					

<来週の主要経済統計等>

- 16日 日本第3四半期国内総生産 (GDP) 1次速報
 - 英11月ライトムーブ住宅価格
 - 中国10月小売売上高、中国10月鉱工業生産指数
 - 日本9月鉱工業生産指数確報値
 - カナダ9月製造業出荷
 - 米11月NY連銀製造業景気指数
- 17日 豪中銀 (RBA) 理事会議事要旨 (3日分)
 - カナダ9月卸売上高
 - 米10月小売売上高、米10月輸入価格指数
 - 米10月鉱工業生産・設備稼働率
 - 米9月対米証券投資
- 18日 NZ第3四半期生産者物価指数
 - 日本10月貿易収支
 - 英10月消費者物価指数、英10月生産者物価指数、英10月小売物価指数
 - ユーロ圏10月消費者物価指数確報値
 - 米10月住宅着工・許可件数
 - カナダ10月消費者物価指数
- 19日 豪10月雇用統計
 - ユーロ圏9月経常収支
 - 米新規失業保険申請件数、米11月フィラデルフィア連銀景況指数
 - 米10月中古住宅販売件数、米10月景気先行指数
- 20日 日本10月消費者物価指数
 - 独10月生産者物価指数
 - 英10月小売売上高
 - カナダ9月小売売上高

【前回のレビュー】米議会選挙では下院は民主党、上院は共和党が多数派を維持との見通しが広がっている。民主党が主張している巨大IT企業などへの規制導入の可能性は低下するとの期待感などから米国株は堅調であり、ドル売りの流れが続いてドル円は103～104円台で上値の重い展開になるとした。

【ワクチンへの期待感と感染者数増加のせめぎあい】

9日に米ファイザーが独ビオンテックと共同で開発している新型コロナウイルスのワクチンの臨床試験で高い有効性が出たと発表した。米ファイザーはワクチンの安全性の検証が終わり次第、11月中にも米食品医薬品局 (FDA) にワクチンの緊急使用許可を申請すると報じられた。

ワクチンの実用化で景気が回復に向かうとの期待感が広がり、9日の米国株式市場でNYダウは寄り付きで1600ドル以上の急騰となり、その後は上げ幅を削ったものの、834ドル高で引けた。10日のNYダウもその余波が続いて264ドル高。ワクチンへの期待感から景気敏感株への買いが広がった。なお、7日には米大統領選で民主党のバイデン候補の当選が確実となり、米国での政治的不透明感が後退したことも9日以降の米株高の一因となった。

NYダウは11月に入り、10日までに2900ドル超の大幅な上昇を見せた。その反動もあり、11日に23ドル安、12日に317ドル安と上げ一服となっている。11日の新型コロナウイルスの感染者数は全世界で66万人超となり、過去最多となった。米国では2日連続で感染者数が14万人を突破、入院患者数も過去最多となるなど感染拡大が警戒されている。

こうした中、米10年物国債利回りは11日に0.975%前後まで上昇した。その後の米国株の構成や新型コロナウイルスの感染者数拡大を受けて、12日には0.88%台まで低下している。

新型コロナウイルスのワクチンへの期待感は根強いものの、感染者数の拡大傾向には歯止めがかかっていない。米国だけでなく、欧州でも感染者数は拡大している。こうした状況下ではワクチンへの期待感と感染者数の増加によるせめぎあいが続くとみられる。

9日のNYダウの大幅高を眺めてドル円は103円台後半から一時105.60台まで急伸、その後は105円台での振幅が続いた。米株高が一服して、米長期金利の上昇も一息となったことで、ドル円は13日に105円を割り込んでいる。

日本、米国、欧州では株価も上昇が続いてきたこともあり、新型コロナウイルス感染拡大を警戒して、株価は反動安が警戒される。ワクチンが広く実用化されるまではまだ時間を要するとみられ、株高も調整を迎える可能性が高そうだ。そうなった場合は、ドル買い円買いの動きとなりやすくなり、そうした中でも円買いがやや勝る動きが見込まれる。ドル円は105円近辺を中心とするもみ合いが続くこととなりそうだ。ドル円の目先の予想レンジは、104.00～106.00円。

今後の日米の経済指標やイベントとしては、16日に日本第3四半期国内総生産（GDP）1次速報、日本9月鉱工業生産指数確報値、米11月NY連銀製造業景気指数、17日に米10月小売売上高、米10月輸入価格指数、米10月鉱工業生産・設備稼働率、米9月対米証券投資、18日に日本10月貿易収支、米10月住宅着工・許可件数、19日に米新規失業保険申請件数、米11月フィラデルフィア連銀景況指数、米10月中古住宅販売件数、米10月景気先行指数、20日に日本10月消費者物価指数などがある。

【ユーロドルは上値を抑えられやすい展開か】

欧州中央銀行（ECB）のラガルド総裁は、11日の講演で12月に開催される次回理事会で追加緩和に動く意向を示唆した。「あらゆる選択肢が議論の対象となりうるが、新型コロナウイルス向けのパンデミック緊急購入プログラム（PEPP）や長期資金供給オペ（TLTRO）の有効性が確認されている」と述べ、これらの拡充が有力との見解を示した。

欧州では新型コロナウイルスの感染拡大傾向が続いていることで、一部の国ではロックダウン（都市封鎖）に動くなど経済活動への悪影響が警戒されている。ECBが追加緩和に動く可能性が高まっていることや新型コロナウイルスによる景気減速への警戒感から、ユーロは上値を抑えられやすい流れとなりそうだ。

米ファイザーによるワクチン開発への期待感から米国株が大幅高となり、英FTSEや独DAXなどの欧州株も上値追いの動きを見せてきた。こうした動きも一服して調整に向かうとみられ、ユーロドルは上値を抑えられやすい展開が続くこととなりそうだ。ユーロドルの目先の予想レンジは、1.1600～1.1925ドル。

日米以外の今後の経済指標やイベントは、16日に英11月ライトムーブ住宅価格、中国10月小売売上高、中国10月鉱工業生産指数、カナダ9月製造業出荷、17日に豪中銀（RBA）理事会議事要旨（3日分）、カナダ9月卸売売上高、18日にNZ第3四半期生産者物価指数、英10月消費者物価指数、英10月生産者物価指数、英10月小売物価指数、ユーロ圏10月消費者物価指数確報値、米10月住宅着工・許可件数、カナダ10月消費者物価指数、19日に豪10月雇用統計、ユーロ圏9月経常収支、20日に独10月生産者物価指数、英10月小売売上高、カナダ9月小売売上高などがある。

MINKABU PRESS 佐藤昌彦

※投資や売買についての判断は自己責任でお願いします。

<免責事項>

本レポートは情報の提供のみを目的としています。投資に関する最終判断はご自身の責任においておこなわれるようお願いいたします。また本レポートに掲載している情報の正確性については万全を期しておりますが、人為的、機械的その他何らかの理由により誤りがある可能性があり、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドは、利用者がこれらの情報を用いて行う判断の一切について責任を負うものではありません。また、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドが提供するすべての情報について、許可なく転用・転載等することを固く禁じます。

<著作権について>

本レポートの著作権は、原則として当社(株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイド)が保有しており、著作権法、その他の法律および条約により保護されています。本レポートご利用のお客様は、私的使用目的の複製、引用等著作権法上認められている範囲を除き、当社およびその他著作権者の許諾なく、これらの著作物を翻案、公衆送信、営利を目的とする使用等いかなる目的、態様においても利用することはできません。